

# 男子大学生の抱く父親象形成に関する基礎的研究 —父子関係・夫婦関係の視点から—

尾形 和男

名誉教授

## Fundamental Research on Father Image which the Male College Student Holds —Based on Father and Son Relations and Couple Relations—

Kazuo OGATA

*Professor Emeritus of Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan*

### 問題と目的

父親の育児・家事への参画は最近男性自身の意識にも必要なものであるとの認識が徐々に芽生え始めているようである。この傾向は、イクメンといわれる言葉が出現してから、子育てに関わる男性が少しずつ増加していることから推測できることである。しかし、我が国の父親の育児や家事への意識や関わりは世界各国の中でも極めて低いことは指摘されており（船橋, 2007）、この傾向は依然として続いていることは各種の報告の中にも確認されている（例えば、内閣府, 2016）。

父親の家事・育児への参画が依然として低いとされる我が国では、次世代において父親になっていく若者はどのようにして父親像を形成しているのだろうか。このことに関して、男性が従来家事・育児にあまり関わらない状況の中ではモデルとなる父親が子どもの前に存在せず、モデル不在とさえいえるのではないだろうか。これに関し、石川（1995）は、父親像について、既に子育てを終えた大学生を持つ父親たちの子育て観とその父親との関わり方の比較から子育て観の世代差を検討し、実父の世代は戦後急激な社会の変化の中で父親から父親像を受け継ぐことが出来ず、それが失われてしまった時に同時に父親の持つ意味、親として持つべきものまでが失われてしまったのではないかと指摘している。このような時代の流れの中で最近家事や育児に関わっている父親は、自分にとっての父親のモデル不在の中で自ら父親としてあるべき姿を模索しながら子育てにあたっている面も多くあるものと考えられる。また、モデルとしての父親像形成に関連してデッカー・丸山（2015）は、現代社会に求められる父親像形成について国内外の文献から検討を加えており、

父親の認識を育むためには夫婦間の親密度を高めること、子育てへの教育支援を子育てしやすい社会・職場環境を整えて行くことが大切であるとして、父親個人に関わる要因のみならず、父親を取り囲む環境の重要性について指摘している。

このような視点に基づいて、実際の親子関係の在り方が子どもの価値観や生き方にどのような影響をもたらすのか、という報告がなされている。森下（1979）は依存的同一視論（Bronfenbrenner, 1960）の視点に基づいて検討を加えている。具体的には親との親和性が高い子どもは親の価値観などと類似しているという仮説から、大学生の親子間の親和性が高いほど親の価値観と性格が類似し、さらに情緒的安定は母親に類似していることを指摘している。

さらに、親の就労、家事、育児の状況が子どもの意識に与える影響について指摘した報告がある。日下部（2009）は子育て予備軍としての大学生を対象とした調査から、就学前に母親が就労している群は出産後も母親が仕事を継続することを望ましいとする者が有意に多く、父親が育児に関わっていた学生の方が育児は母親だけがするとの意識が低いことを指摘し、幼児期の家庭環境が大学生の育児観に影響するとしている。また留岡・桂田（2012）は平等的性役割観について、大学生から見た父親の現在の家事遂行状況、父親の過去の育児経験などを含めて性役割観との関連性について分析を加えている。それによれば、男子学生は父親がより多く家事を行っていると認知している場合平等的性役割観を持つ傾向があるとしている。木村（2013）は、父親の家事参加の程度が子どもの性役割意識に及ぼす影響について大学生と一般市民を対象として検討を加え、父親の家事参加程度が子どもの家事参加を高める直接的な要因にならないものの、女子にとっては

積極的に家事に参加する父親の行動を観察して育つことは男性からのサポートに対する感受性や、仕事における適切な分業の意識形成に影響するとしている。その一方で、清水・田中・戸部（2015）は両親の在り方と父親の子どもとの関り方と将来の父親像との関連性について男子学生を対象として分析を加えた。その結果、自分が将来子どもと一緒に遊んであげたいとするのは父親と一緒に遊んだことの多い学生であること、将来父親のようにになりたいとする学生は両親の仲が良い場合、父親との関係性が良い者、理想の親モデルを両親とする者ほど高いとして、父親像形成に及ぼす親の影響力を指摘している。また、尾形（2006, 2007）は家族の父親の仕事に対する理解と夫婦関係のあり方が父親像形成にどのような影響があるのかということについて検討を加えている。結果として、父親の仕事についての家族の理解と夫婦として相手への尊重がある場合は「子ども・家族との会話を重視する」父親像形成に関連するとしている。

さらに性役割観について相良（1998）は、男子は父親が伝統的な性役割観を持っている場合は同様に伝統的なものになること、女子の場合には男子ほど影響は強くはないものの同様の関係が母親との間に見られたとしている。また、男子大学生の平等的性役割態度は父親の性役割態度、女子大学生の平等的性役割態度は母親の性役割態度と関連していることを示した報告もある（Katsurada, Morikawa, & Kai, 2003）。これに類して佐藤・田中（2001）は伝統的な性役割観を持つ親は男女それぞれに伝統的なしつけを重視し、子どものジェンダー観形成に影響しているとしている。

上述の一連の先行研究から、養育にあたる父親と母親の状況から子どもが何らかの形で影響を受け、そのことが将来の父親像形成の一要因として存在し得ることが示唆されている。この視点は、日常生活の中で親のジェンダー観、行動が少なくともこれから社会に出る準備をしている子どもの親としての指標形成に影響力を示すものであり、家庭の持つ影響力の重要性を改めて示していると考えられる。

本研究はこれらの先行研究から示唆されるような視点に立ち、これから親になっていく立場にある大学生に焦点を当て父親像形成プロセスの一端について、家庭の父子関係と夫婦関係を基礎とした検討を加える。ここで対象としている大学生については、男子は直接父親（夫）の立場になっていくのであるが、女子については母親（妻）としてどのような父親（夫）を望むのかということの基本として、男女それぞれについての探索的に検討を加える。しかし、大学生である青年の捉える父親像そのものは発達的に見て、結婚がまだ先のこともある点から漠然とした現実味の薄い内容とも考えられる。これは結婚が近づき、家庭を持つことを現実的に考えなくてはならない時期とは異なるもの

であろう。このように考えると、父親に求められる役割についても年齢と共に徐々に現実味を帯び変化していくと考えられるので、大学生の段階での父親像を発達の視点から捉えることも必要と考える。

また、父親像は歴史的に見てもその時代の文化、社会の状況に応じてその求められる姿が変化しているが、船橋（1999）は現代社会において求められる父親は、稼ぎ手・社会化の担い手・世話の担い手、の3役をこなすことが求められるとして従来以上の多重役割を指摘している。本研究ではこのような視点から、現代社会において求められる父親の役割の3機能を基本としてより幅広くとらえる必要があると考える。とりわけ、共働き家庭が増加している現代社会においては、船橋（1999）の指摘する父親として3機能を中心とする役割だけでは対応は不十分であると考えられる。少なくとも夫婦揃っての多重役割を担う現状において、夫婦間の精神的な支え合いが強く求められるであろう。これは、夫婦間の精神的やり取りを媒介とするコミュニケーションそのものであり、その役割は従来以上に必要不可欠なものになっていると考える。したがって、本研究では現代社会において求められる父親の役割を、夫婦間のコミュニケーションに基づく繋がりを形成する役割も加えた4機能を基本とする。同時にその父親像が家庭の夫婦関係と子どもと父親との関係によりどのように影響を受けているのかを探索的に明らかにすることを目的とする。

## 方法

### 1. 調査対象者

埼玉県のA大学とB大学の男子学生129名〔1年生2名、2年生104名、3年生20名、4年生3名〕、平均年齢19.60歳。共働き家庭（パートを含む）95世帯、専業主婦家庭33世帯。1世帯不明。埼玉県のA大学とB大学の女子学生137名〔2年生68名、3年生67名、4年生2名〕、平均年齢20.21歳。共働き家庭（パートを含む）104世帯、専業主婦家庭32世帯。1世帯不明。

### 2. 調査用紙

(1) 幼少期の親子関係を調べる21項目〔青柳・酒井（1977）の16項目に5項目を加えた〕。

(2) 夫婦関係を調べる40項目〔大野・柏木（1992）の30項目を基にして、子育てと家事に関連する内容を検討し10項目を加えた〕。

(3) 父子関係を調べる40項目〔森下（1981）の17項目を基として、子どもから見た父親の母親に対する姿勢、父親の家族への関わりに関する項目を加えより広い視点から捉えることとした〕。

(4) 父親像に関する45項目〔尾形（2006）作成の52項目を基本として45項目を作成した。なお父親像につ

いては、船橋（1999）の指摘する、稼ぎ手・社会化の担い手・世話の担い手、に加え、コミュニケーションも含めた4領域に関連する項目を検討し、心理学専攻の学生6名による評価から内容的信頼性を確認した。

(1)～(4)の質問紙は全て4段階評定。

本研究では、男子学生の抱く父親像について検討するが、より現実的に捉えるために男子と女子ともに調査対象とした。また、学生の見る夫婦関係と親子関係と父親像形成との関連性を検討するのが主目的であるために、(2)～(4)の質問紙の分析を行った。

### 3. 調査時期

2017年5月講義を通して調査の趣旨と内容を説明し、協力に承諾してくれた学生に講義後配布し、後に回収した。説明にあたり、研究の目的、個人情報保護、個人的に見るものではなく全体の傾向を見るものであること、またデータ入力後はシュレッターで処理することなどを伝え、守秘義務に基づき迷惑をかけない旨説明を行った。

## 結果

### 1. 質問紙の構造化

#### (1) 夫婦関係を調べる質問紙

夫婦間の関係がどのような構造になっているのかを調べる明らかにするために因子分析（最尤法、プロマックス回転）を実施した。因子負荷量.04以上を有する項目を基準として4因子を抽出した。各因子の負荷量の高い項目に共通する内容から検討を加え、第1因子「夫婦相互の尊敬・信頼」( $\alpha = .953$ )、第2因子「夫婦協同による子育て」( $\alpha = .880$ )、第3因子「夫婦相互の役割分担の認識」( $\alpha = .772$ )、第4因子「夫婦間の意見の主張」( $\alpha = .832$ )と命名した（Table 1参照）。4因子の累積寄与率は66.41%であった。

#### (2) 父子関係を調べる質問紙

今現在、子どもは父親をどのように捉えているのかについて、質問紙から構造化を図るために同様に因子分析を実施した（最尤法、プロマックス回転）。因子負荷量.04以上を有する項目を基準として4因子を抽出した。各因子の負荷量の高い項目に共通する内容から検討を加え、第1因子「子・母への思いやり」( $\alpha = .933$ )、第2因子「父親との一体感」( $\alpha = .870$ )、第3因子「父親への遠慮・戸惑い」( $\alpha = .819$ )、第4因子「尊敬と依存の対象」( $\alpha = .896$ )と命名した（Table 2参照）。4因子の累積寄与率は61.23%である。

#### (3) これから求められる父親像を調べる質問紙

青年の抱く父親像についても同様に因子分析を実施した（最尤法、プロマックス回転）。因子負荷量.04以上を有する項目を基準として4因子を抽出した。各因子の負荷量の高い項目に共通する内容から検討を加

え、第1因子「妻・家族とのコミュニケーション」( $\alpha = .958$ )、第2因子「子どものしつけ」( $\alpha = .917$ )、第3因子「家事・育児」( $\alpha = .862$ )、第4因子「仕事・稼ぎ手」( $\alpha = .627$ )（Table 3参照）。4因子の累積寄与率は55.89%であった。

上記第2因子から第4因子は順に、船橋（1999）の指摘する「社会化の担い手」「世話の担い手」「稼ぎ手」に対応する。

また、(1)～(4)の質問紙の構造化にあたり、より現実的な視点を反映させるため男女を合わせて因子分析を実施した。

#### (4) 父親像の状況に関する分析

(3)に基づいて抽出された父親像を構成する4因子の構成状況を基に学生が抱いている父親像を探るために、男女を込みにしてクラスタ分析を行った。ここでは男女の因子得点をZ得点に換算し、階層的クラスタ分析（Ward法、ユークリッド平方距離）を行った。抽出したデンドログラムおよび解釈可能性から3つのクラスタの構造を妥当と判断した（Figure 1）。

各クラスタの特色をみると、クラスタⅠは「妻・家族とのコミュニケーション」「子どものしつけ」「家事・育児」「仕事・稼ぎ手」全ての得点が平均以下であるが、「仕事・稼ぎ手」のみ相対的に高いので「稼ぎ中心家庭低関与型」（76名）とした。クラスタⅡは「仕事・稼ぎ手」のみ平均以下であり、「妻・家族とのコミュニケーション」「子どものしつけ」「家事・育児」は全て平均以上で子育てにあたる一方で夫婦間のコミュニケーションが図られている状況を示しているので「夫婦コミュニケーション・家事・育児・しつけ型」（86名）とした。また、クラスタⅢは「家事・育児」のみ平均以下になっており、「妻・家族とのコミュニケーション」は平均を少し上回る程度であり、「子どものしつけ」「仕事・稼ぎ手」は平均以上であるので「仕事・稼ぎ手・しつけ型」（103名）とした。

### 2. 親子関係、夫婦関係、父親像構成因子についての男女の捉え方の比較

現在の親子関係、夫婦関係、父親像構成因子について抱く男子学生と女子学生の差異を検討するために、それぞれについて比較をした。Table 4に示すように、現在の父子関係については「子・母への思いやり」で男子の方が高い傾向がみられた。夫婦関係については「夫婦間の意見の主張」では女子学生の方が高い傾向を示した（ $t = .176$ ,  $df = 264$ ,  $p < .10$ ）。さらに、父親像について因子別にみると「妻・家族とのコミュニケーション」「子どものしつけ」において女子学生の方が有意に高く（それぞれ $t = -3.68$ ,  $df = 263$ ,  $p < .001$ ;  $t = -4.28$ ,  $df = 264$ ,  $p < .001$ ）、「仕事・稼ぎ手」は男子学生の方が有意に高いことが示された（ $t = 3.41$ ,  $df = 264$ ,  $p < .01$ ）。

Table 1 夫婦関係についての因子分析結果（最尤法 プロマックス回転後）

	F1	F2	F3	F4	$\alpha$
<b>(F1：夫婦相互の尊敬・信頼)</b>					
3. 母は父を尊敬している	.978	-.026	-.036	.010	
2. 母は父を頼りにしている	.947	-.039	.009	.028	
4. 父は母を尊敬している	.881	-.059	.072	-.045	
5. 父は母を頼りにしている	.776	-.034	.164	-.036	.953
1. 私の両親は夫婦間の会話が多い	.732	.160	-.062	.055	
37. 父と母の関係は安定している	.609	.261	.032	-.086	
38. 父と母は共通の話題を楽しんでいる	.597	.281	-.065	.067	
39. 父と母は意見が合う	.551	.284	-.025	-.060	
<b>(F2：夫婦協同による子育て)</b>					
23. 我が家では、父母共にいろいろと相談して育児や家事など互いに協力し合って生活してきている	.002	.832	.079	-.036	
24. 我が家では、父と母はお互いに分担して生活を進めるというよりもお互いに行えることは率先して相手をカバーして生活してきた	.030	.797	-.029	.053	
12. 父と母は一緒に子育てをしてきた	-.009	.774	-.001	-.004	.880
13. 父は子育てについて母といろいろと相談してきた	.040	.722	.017	-.030	
25. 父は母や子どもといろいろと話し合い、問題を解決してきた	.057	.706	.159	-.053	
29. 掃除・洗濯は父も手伝うことが多い	.019	.531	-.335	.053	
28. 食事の後片付けは父も手伝うことが多い	.173	.480	-.315	.072	
15. 私は自分のことについて父や母といろいろと話すことが多い	-.043	.475	.174	.005	
14. 父と母は私の将来のことについていろいろと相談に乗ってくれる	.189	.435	.163	-.010	
<b>(F3：夫婦相互の役割分担の認識)</b>					
18. 父は自分の役割として、経済的な支えが中心であると考えている	-.105	.077	.770	.015	
19. 母は父が経済的な支えの中心であると考えている	.059	.061	.732	.069	.772
20. 父は自分が家族を経済的に支えていると考えている	.101	-.015	.612	.081	
22. 我が家では、父は仕事、母は家事・育児中心で役割分担がはっきりしていた	.082	-.151	.548	-.033	
<b>(F4：夫婦間の意見の主張)</b>					
34. 父は母と意見が合わない時、しばらくの間機嫌が悪い	.083	-.051	-.048	.971	
36. 母は父と意見が合わない時、しばらくの間機嫌が悪い	-.073	.121	.023	.741	.832
35. 父は母と意見が合わない時自分の考えばかりを言う	-.057	-.056	.154	.648	
因子相関	F1	.734	.358	-.153	
	F2		.290	-.032	
	F3			.137	
	F4				

Table 2 父子関係についての因子分析結果（最尤法 プロマックス回転後）

	F1	F2	F3	F4	$\alpha$	
(F1: 子・母への思いやり)						
34. 私は父はやさしい人だと思う	.892	.018	.018	-.132		
35. 私は父が親切で思いやりのある人だと思う	.794	.045	-.003	-.012		
8. 父は母を大事にしている	.721	-.063	.048	.052		
21. 父は私に責任を持たせ自由にしてくれる	.720	.056	-.071	-.171		
9. 父は家族を大切にしている	.687	-.074	.064	.179		
20. 家族のみんなは父が好きである	.636	.162	.174	-.064		
37. 私は父は家族の経済的支柱だと思う	.613	-.208	-.096	.243	.933	
25. 父は一家の大黒柱である	.562	-.117	-.042	.307		
22. 父は家族のよき理解者である	.559	.265	.121	.013		
23. 父は私の考えを大事にし、励ましてくれる	.555	.383	.098	-.110		
38. 私は父は家族の精神的支柱であると思う	.523	.306	-.136	.127		
39. 私は父が頼れる存在に思える	.515	.113	-.070	.374		
40. 私は父が自分の本音を理解してくれていたと思う	.490	.315	.077	.062		
36. 私は父が不公平な人だと思う	.406	-.330	.257	.107		
(F2: 父親との一体感)						
32. 私父に言われたことは喜んで何でもしたいと思う	-.096	.864	.025	-.092		
31. 私は寂しくなった時父を思うことがある	-.047	.821	-.080	-.099		
29. 私は父のまねをすることが多い	-.156	.784	-.221	.115		
24. 父と話をすると落ち着くことが多い	.328	.640	.069	-.100	.870	
30. 私はたいていのことは父を手本にしたい	.025	.610	-.165	.310		
15. 私は自分の将来のことについて父に相談することが多い	-.183	.498	.343	.219		
27. 父は自分の仕事のことを熱心に話してくれる	.015	.492	-.018	.081		
33. 私は父が悲しんでいる時自分まで悲しくなる	.245	.435	-.173	.094		
(F3: 父親への遠慮・戸惑い)						
5. 父とはあまり話すことはない	-.084	.184	.779	.103		
26. 私は父といると何を話していいのか戸惑う	-.039	-.116	.755	-.136		
12. 父親と一緒にいても話がなくつまらない	.001	-.129	.663	.181	.819	
14. 私は父といろいろと話をすることが多い	-.075	.395	.523	.054		
11. 父親と家族は距離があるように感じる	.346	-.206	.499	.058		
28. 父は私がすることに興味がない	.204	-.256	.462	.114		
(F4: 尊敬と依存の対象)						
3. 父は私にとって人生の先輩である	-.008	.230	-.026	.740		
4. 父からいろいろと得るものがある	.007	.117	.014	.712		
1. 私は父親を尊敬している	.227	-.036	-.023	.709	.896	
2. 父はいろいろと相談にのってくれる	-.065	.366	.192	.457		
10. 父の話は説得力がある	.224	.085	.036	.454		
	因子相関	F1	.621	.646	.710	
		F2		.476	.619	
		F3			.551	
		F4				

(項目番号のアンダーラインは逆転項目)

Table 3 これから求められる父親像についての因子分析結果 (最尤法 プロマックス回転後)

	F1	F2	F3	F4	$\alpha$
<b>(F1: 妻・家族とのコミュニケーション)</b>					
44. 夫として妻が困った時には何でも打ち明けてもらえるように努める	.891	-.039	-.042	.138	
46. 夫として妻には何でも話して行く	.856	-.016	-.043	.180	
43. 夫婦間は何でも話せる仲でなくてはならない	.851	-.081	-.050	.258	
40. 家族メンバー一人一人の支えになって行く	.834	-.005	-.001	-.016	
47. 子どもの教育など大事なことについては積極的に相談にのる	.818	.059	-.104	.039	
42. 妻とはいろいろと話し合っていく	.801	.035	-.107	-.179	
41. 家族メンバー一人一人の意見を尊重し、家族としてまとめる	.801	.051	-.020	-.017	
45. 食事の時は子どもや妻ともいろいろと話をする	.771	.032	.005	-.018	.958
38. 問題が生じたときには家族で話し合い、決めて行く	.723	.005	-.058	-.194	
49. 父として、家族メンバーの表情から心の状態を知ることも必要だと思う	.721	-.043	.220	.251	
36. 家族メンバー一人一人の話を聞いて行く	.711	.058	.033	-.084	
35. 子どもといろいろと話ができるようにする	.708	.052	-.003	-.165	
34. 子どもから相談を受けたときは十分に話を聞いてあげる	.706	.029	.018	-.207	
48. 夫婦間で意見の食い違いがある場合、とことん話し合う	.691	.040	.005	.075	
39. 妻が仕事で遅くなったり、疲れていた時にはできるだけ支えてあげる	.583	.077	.082	-.091	
31. 子どもを公園などに連れて行って遊んであげる	.549	.114	.040	-.130	
50. 父親として家族のメンバーを誘って食事に行くことも必要だと思う	.544	-.029	.274	.220	
<b>(F2: 子どものしつけ)</b>					
5. 子どもに約束を守るように教える	-.058	.837	-.075	.023	
6. 子どもに人を大切にすることは大事であることを教える	.031	.831	-.078	-.061	
8. 子どもに規則を守ることは大切であることを教える	.002	.827	.043	.111	
9. 子どもに人の話を聞くことは大切であることを教える	.035	.813	.025	.012	
7. 子どもに社会では人と協調することが大切であることを教える	.027	.735	.119	.170	
11. 子どもに挨拶するように育てる	.083	.732	-.123	-.090	
12. 子どもには自分のわがままはコントロールするように教える	-.071	.696	.033	.123	.917
10. 子どもに人に迷惑をかけてはいけないことを教える	.017	.689	-.032	.157	
13. 子どもがわがままなことをした時は叱ってもよい	-.089	.592	.057	.127	
15. 子どもに大事なことはきちんと相手に伝えるように教える	.191	.569	-.084	-.150	
16. 子どもは自分で考え自ら行動できる人間に育てる	.194	.511	-.070	-.097	
19. 子育ては妻にばかり任せないでできる限り援助する	-.031	.478	.337	-.127	
14. 子どもが時間を守らないと叱る	.177	.465	-.005	.171	
18. 子育てには積極的に関わる必要がある	.069	.408	.259	-.105	
<b>(F3: 家事・育児)</b>					
22. 食事の準備に関わっていく	-.089	-.042	.773	-.016	
23. 育児休暇を取ってでも子育てに関わる	-.032	-.139	.759	.072	
21. 保育園に預けた場合、できるだけ子どもの送り迎えをする	-.102	.077	.668	.037	
25. 食事の後片付けの手伝いをする	-.029	.079	.662	-.194	.862
24. 必要に応じて食事の準備の手伝いをする	.079	-.054	.648	-.185	
30. 子どもが熱を出した時、会社を休んでも子どもへの対応をする	-.080	.050	.607	.122	
27. 子どもの身の回りのことは進んで世話をする	.163	.000	.582	.079	
26. 日用品などの買い物に妻と一緒に出かける	.246	.017	.436	-.125	
29. 子どもの保育参観に出席する	.295	-.027	.430	.017	
<b>(F4: 仕事・稼ぎ手)</b>					
4. 夫は主に仕事を中心、妻は家事育児中心の家庭が望ましい	.161	.055	-.114	.534	
20. 子育ては妻に任せるのが良い	-.056	-.136	.132	.511	.627
2. 家庭よりも仕事を優先する	-.143	.174	.025	.446	
1. 夫の主な役割は収入を得ることである	.076	.182	.015	.436	
因子相関	F1	.686	.531	-.284	
	F2		.449	-.314	
	F3			-.197	
	F4				

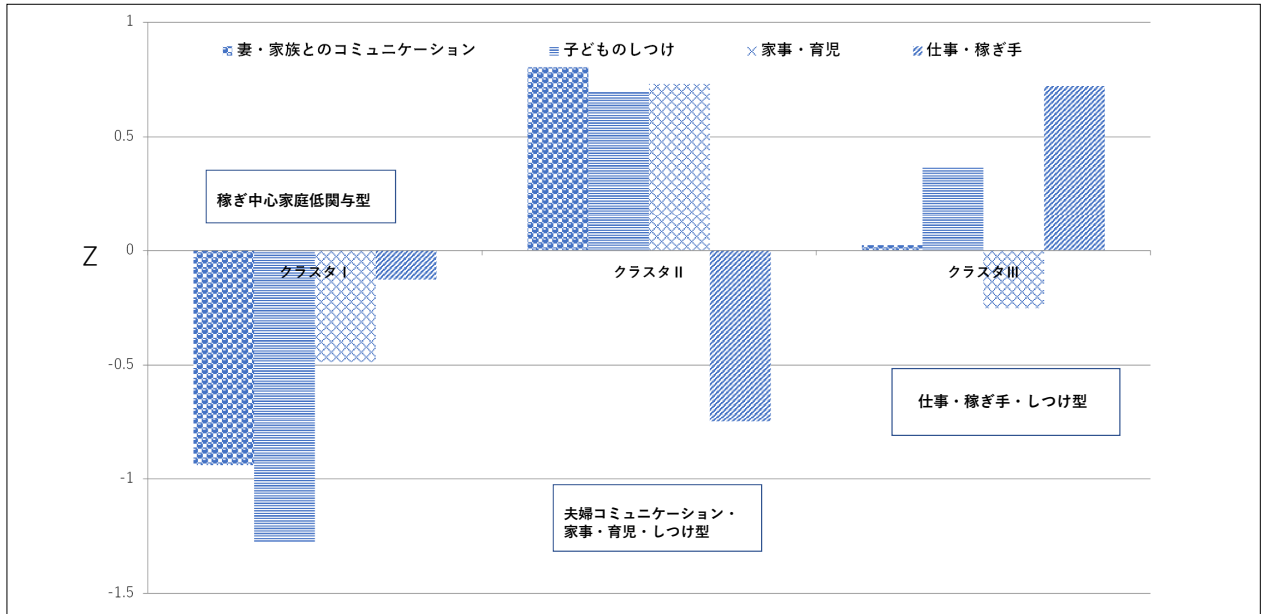


Figure 1 父親像についてのクラスタ分析

Table 4 父子関係，夫婦関係，父親像構成因子についての男女の得点差

	父子関係				夫婦関係				父親像構成因子			
	子・母への 思いやり	父親との 一体感	父親への遠 慮・戸惑い	尊敬と依存の 対象	夫婦相互の 尊敬・信頼	夫婦協同に よる子育て	夫婦相互の役 割分担の認識	夫婦間の意見 の主張	妻・家族との コミュニケー ション	子どもの しつけ	家事・育児	仕事・稼ぎ手
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
男子	3.06 (.61) <sup>†</sup>	2.12 (.66)	2.87 (.62)	2.87 (.63)	2.86 (.82)	2.71 (.61)	2.82 (.71)	2.58 (.88)	3.42 (.49)	3.36 (.47)	3.19 (.49)	2.57 (.56)**
女子	2.92 (.72)	1.99 (.66)	2.87 (.78)	2.87 (.78)	2.77 (.94)	2.59 (.77)	2.82 (.75)	2.76 (.83) <sup>†</sup>	3.62 (.37)***	3.59 (.37)***	3.17 (.51)	2.33 (.56)

<sup>†</sup>p<.10 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

### 3. 大学生の性差に基づく父親像の比較

父親像の状況を示す3クラスタそれぞれが，大学生の性差によってどのような違いを有するのか検討を加えた。性差と3クラスタのクロス集計を実施し， $\chi^2$ 検定を行い，有意差がみられる場合には残差分析を行った。Table 5に示すように性差と3クラスタ間に有意な差が見られた ( $\chi^2(2) = 15.63, p<.001$ )。残差分析の結果，「稼ぎ中心家庭低関与型」においては男子が女子よりも有意に多いことが示され，「夫婦コミュニケーション・家事・育児・しつけ型」では女子が男子よりも有意に多いことが示された。この結果から，男性は仕事を中心とした生活志向が強く，女性は夫婦揃っての家庭生活の中での子育て志向が強いことが示された。

Table 5 学生の性別にみたクラスタ別の理想とする父親像の違い

(父親像)	稼ぎ中心 家庭低関与型	夫婦コミュニケーション・ 家事・育児・しつけ型	仕事・稼ぎ手 ・しつけ型
	$\chi^2(2) = 15.63^{***}$		
男子 (128人)	50	30	48
残差	3.6*	-3.0*	-4
女子 (137人)	26	56	55
残差	-3.6*	3.0*	.4

\*p<.05 \*\*\*p<.001

### 4. 男子学生の抱くクラスタに基づく父親像形成に関わる要因についての検討

ここでは，3クラスタを従属変数，学生を見る夫婦関係と親子関係を独立変数とする判別分析（正準判別分析）を試みた。また，以下の分析は現在の男子学生の抱く父親像を検討することが主目的であるので，男子学生のデータに基づき分析を行った。

#### (1) 夫婦関係と父親像

夫婦関係（「夫婦相互の尊敬・信頼」「夫婦協同による子育て」「夫婦相互の役割分担の認識」「夫婦間の意見の主張」）が3クラスタに示される男子学生の持つ父親像形成（「稼ぎ中心家庭低関与型」「夫婦コミュニケーション・家事・育児・しつけ型」「仕事・稼ぎ手・しつけ型」）にどのような影響を与えているのだろうか。

正準相関係数が十分に高くはないものの第1判別関数において分散の70.7%が説明され，Wilksのラムダにおいて有意 ( $p<.05$ ) であることから第1判別関数の識別力があるものとして扱った (Table 6)。また，Table 7と Table 8から第1判別関数の正準判別関係係数とグループ重心の関数を基に解釈すると，「夫婦相互の役割分担の認識」が高い場合「仕事・稼ぎ手・しつけ型」の色彩の強い父親像形成に影響し，逆に「夫

Table 6 夫婦関係と父親像（固有値とWilksのラムダ）

	(固有値)			(Wilksのラムダ)			
	固有値	分散%	正準相関	Wilksのラムダ	$\chi^2$	df	有意確率
関数1	.096	70.7	.296	.877	16.19	8	.040
関数2	.040	29.3	.196	.962	4.84	3	.184

(Wilksのラムダ：関数は検定を示す)

Table 7 夫婦関係  
(標準化された正準判別関数係数)

	関数1	関数2
夫婦相互の尊敬・信頼	.210	.112
夫婦協同による子育て	-.310	-.586
夫婦相互の役割分担の認識	.926	-.309
夫婦間の意見の主張	.267	.843

Table 8 夫婦関係とクラスタに基づく父親  
(グループ重心の関数)

クラスタ	関数	関数1	関数2
稼ぎ中心・家庭低関与型		-.270	.175
夫婦コミュニケーション・家事・育児・しつけ型		-.179	-.338
仕事・稼ぎ手・しつけ型		.393	.029

Table 9 父子関係と父親像（固有値とWilksのラムダ）

	(固有値)			(Wilksのラムダ)			
	固有値	分散%	正準相関	Wilksのラムダ	$\chi^2$	df	有意確率
関数1	.149	80.0	.360	.839	21.615	8	.006
関数2	.037	20.0	.189	.964	4.502	3	.212

(Wilksのラムダ：関数は検定を示す)

Table 10 父子関係  
(標準化された正準判別関数係数)

	関数1	関数2
母・子への思いやり	.736	.332
父親との一体感	-.705	-.111
父親への遠慮戸惑い	-.609	.962
尊敬と依存の対象	.996	-.432

Table 11 父子関係とクラスタに基づく父親  
(グループ重心の関数)

クラスタ	関数	関数1	関数2
稼ぎ中心・家庭低関与型		-.390	-.136
夫婦コミュニケーション・家事・育児・しつけ型		-.104	.340
仕事・稼ぎ手・しつけ型		.471	-.071

夫婦相互の役割分担の認識」が低い場合「稼ぎ中心家庭低関与型」の父親像形成に関連しているといえる。

## (2) 父子関係と父親像

同様に男子学生を見る父子関係（「子・母への思いやり」「父親との一体感」「父親への遠慮・戸惑い」「尊敬と依存の対象」）が父親像形成に及ぼす影響について検討を加えた。正準相関係数が十分に高くはないものの第1判別関数において分散の80.0%が説明され、Wilks

のラムダにおいて1番目の関数が有意 ( $p < .01$ ) であることから第1判別関数の判別力があるものとして扱った (Table 9)。また、Table 10とTable 11から第1判別関数の正準判別係数とグループ重心の関数を基に解釈すると、「尊敬と依存の対象」と「子・母への思いやり」が高い場合「仕事・稼ぎ手・しつけ型」を特色とする父親像が形成され、逆に「尊敬と依存の対象」と「子・母への思いやり」が低く、「父親との一体感」が強くなる場合は「稼ぎ中心家庭低関与型」を特色とする父親像が形成されやすいといえる。

## 考察

### 1. 学生の抱く父子関係・夫婦関係・父親像構成因子について

父子関係については、「子・母への思いやり」において男子学生の方が高い傾向を示しており、当初予想した以上に青年期の男子学生は父親が家族に関わりを持っていてと捉えているようである。

また夫婦関係については「夫婦間の意見の主張」において女子学生の方が高い傾向を示しているが、同性である母親を通して夫婦相互のやり取りをみているためにこのような結果が生じているものとも考えられる。

さらに、これから必要とされる父親像構成因子に関しては全般的に女子学生の方が高く評価しており、特に「妻・家族とのコミュニケーション」「子どものしつけ」においては有意差が見られ、家庭への関与を多くする父親を望ましいと捉えている。その一方で男子は「仕事・稼ぎ手」を理想とする父親として捉えており、従来の女性は育児・家事、男性は仕事とする立場をうかがわせ、依然として根強い意識の固定化が存在しているとも考えられる。

しかし、本研究の結果では「子・母への思いやり」「妻・家族とのコミュニケーション」「子どものしつけ」の男子の得点が相対的に高く、子育てにも父親として関わろうとする意識が表れていると思われる。このことは、都市部の若い父親の間に父親は仕事と育児に同じように関わり母親は育児を優先する「二重基準型」と、父親母親ともに育児と仕事に同じように関わる「平等両立型」が見られるとする報告 (矢澤ら, 2003) にあるように、時代の変化に伴う子育てを大切に考える父親像を男子学生は抱いていることを示唆しているものとも考えられる。

### 2. 性別にみた父親像

性差について「稼ぎ中心家庭低関与型」の父親像に関しては男子の方が有意に高く、逆に「夫婦コミュニケーション・しつけ・育児関与型」においては女子の方が有意に高い値を示しており、女子は一貫して家庭に関わる父親像を男性以上に理想としていることが示



された。また、家庭関与に関しては夫婦間のコミュニケーションも重視していることも合わせて示されており、夫婦間の在り方を重視しつつ、子育てにも関与する父親が求められていることがうかがえる。

一方男子の場合には「稼ぎ中心家庭低関与型」が有意に高く、「夫婦コミュニケーション・しつけ・育児関与型」は女子の方が有意に高く、男子は家庭よりも仕事を主体とする父親像を理想としていることが示されたと考える。この結果は、女性が男性に対して家庭への関与を強く求めるとする報告(船橋, 2004, 2006)と一致するが、この性差による違いは男性としての経済的支えなどの伝統的な役割意識の差を反映しているものと思われる。

### 3. 父親像形成に関わる要因

夫婦関係についてみると、「夫婦相互の役割分担の認識」が高い場合「仕事・稼ぎ手・しつけ型」の父親像形成に、「夫婦相互の役割分担の認識」が低い場合「稼ぎ中心家庭低関与型」の父親像に関連していることが確認された。このことは仕事としつけについて夫婦間で調整を図っている場合には類似した2つの役割を果たす父親像が、そうでない場合には仕事中心の父親像が形成されやすいことを示すのであるが、その因果関係に潜む要因についてはさらに詳細な分析が求められる。また、本論文で扱っている「夫婦相互の役割分担の認識」は男性が仕事中心で家庭の経済的支援者、母親は家事・育児など家庭に関わる傾向が強いと感じている場合であり、従来の伝統的な夫婦役割関係が中心である。したがって得られた結果は、佐藤・田中(2001)の指摘する、伝統的な性別役割観を持つ親は伝統的なしつけを重視し子どものジェンダー観形成に影響するとした報告の一部を支持するものと考えられる。

次に、父子関係の視点からは、父親が子どもや母親への愛情を持ちながら家族を大事にし、子どもにとって身近で尊敬できしかも頼れる存在であると子どもが感じている場合、「仕事・稼ぎ手・しつけ型」の仕事としつけの2領域に関わる比較的広範囲な役割をこなす父親像形成に関連することが示された。この結果は、清水・田中・戸部(2015)の父親との関係性が良い者、理想の親モデルを両親とする者ほど父親を理想とするという報告を裏付けるものと考えられる。

以上のことから、日常生活の中に展開される夫婦関係、父子関係は男子学生の父親像形成の一要因と成り得ることが示唆されたと考える。しかし、本研究では正準相関係数が十分に高いものではないことから結果は参考程度にとどめるものの、今後家族形態を含め、学生の自省をより詳細に探ると同時に女子学生の望む父親像との対比を行い、より精度を上げながら現実的な視点から分析を継続していくことが求められる。

### 引用文献

- 青柳筆・酒井厚 1977 アタッチメントと回想による幼少期のアタッチメントとの関係 早稲田大学人間科学研究, 10(1), 7-16.
- Bronfenbrenner, U. 1960 Freudian theories of identification and their deviations. *Child Development*, 31, 15-40.
- デッカー清美・丸山昭子 2015 父親認識に関する文献研究 日本農村医学会雑誌, Vol. 64. No. 4, 718-724.
- 船橋恵子 1999 父親の現在 渡辺秀樹(編) 変貌する家族と子ども 教育出版 pp. 85-105.
- 船橋恵子 2004 現代父親役割の比較社会的検討 黒柳春夫・山本正和・若尾祐司(編) 父親と家族—父性を問う—早稲田大学出版部 pp. 136-168.
- 船橋恵子 2006 家族と職業のバランス 平成16年度・17年度家庭教育に関する国際比較調査報告書
- 船橋恵子 2007 男女の働き方と子育て 国立婦人教育会館研究ジャーナル, Vol 1, No. 11, 23-32.
- 石川洋子 1995 父親の子育てにおける親の影響に関する研究 文教大学女子短期大学部研究紀要, 39, 51-59.
- Katsurada, E., Morikawa, T., & Kai, M. 2003 Like father, like son: Parent-child relationship in terms of gender-related personalities, attitudes and behavior among Japanese young adults, *Waseda Journal of Asian Studies*, 24, 25-33.
- 木村 誠 2013 父親の育児参加の程度が子どもの性別役割意識に与える影響 日本心理学会第77回大会発表論文集, 1233.
- 日下部典子 2009 母親の就労状況と親の育児行動が大学生の育児観に及ぼす影響 福山大学人間文化学部紀要, 9, 99-107.
- 森下正康 1979 子どもの親に対する親和性と親子間の価値観および性格の類似性 心理学研究, Vol. 50, No 3, 145-152.
- 森下正康 1981 児童の親に対する親和性の因子構造と尺度作成 和歌山心理研究会, 57-72.
- 内閣府 2016 平成28年版 少子化社会対策白書
- 尾形和男 2006 子どもの視点からみた次世代に求められる父親像—父親の仕事と家族への関わり, 子どもの父親に対する親和性に基づく分析的研究—, 学校法人昌賢学園論集, 4, 107-127.
- 尾形和男 2007 父親像形成要因に関する基礎的研究—父親の仕事への関わり, 夫婦関係, 両親と子どもの親和性に基づく分析— 学校法人昌賢学園論集, 5, 115-138.
- 大野祥子・柏木恵子 1992 家庭における父親1—父親の存在感の規定因— 発達研究, 18, 12-154.
- 相良順子 1998 子どもの性別役割観に及ぼす父母の影響 お茶の水女子大学人間文化研究年報, 21, 246-253.
- 佐藤和順・田中享胤 2001 親の性別役割観をモデルとした子どものしつけ文化 日本教育社会学会大会発表 要旨集録, 53, 18-19.
- 清水優花・田中美帆・戸部郁代 2015 育成過程における父子関係が男子大学生の父親像に及ぼす影響について1 役割行動・親モデルにおける分析 母子衛生 56(3): 213
- 留岡佑果・桂田恵美子 2012 大学生とその父親・母親における性別役割観の関連について 臨床教育心理学研究, 38, 27-32.
- 矢澤澄子・国広陽子・天童綾子 2003 都市環境と子育て—少子化・ジェンダー・シティズンシップ— 勁草書房 pp. 157-196.

(2017年9月25日受理)